

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2022(令和4)年 4月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

春の永代経法要のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。

コロナ禍は、未だに収まる様子を見せませんが、様々な状況を鑑み、春の永代経法要をお勤めすることにいたしました。くれぐれも感染や体調に気をつけられて、お参り下さい。

四月十八日（月）

昼一時半

【野波瀬の方】

夜七時半

【自由参拝】

四月十九日（火）

昼一時半

【野波瀬以外の方】

※今回も、地区別に参拝日を

分けました。ご都合により、

違う日にお参りされても構いません。

※市外の方は、申し訳ありま

せんが、今回も参拝自粛を

お願いします。



御講師

山口市 正善寺住職

名護屋宗味 師

長門市における感染状況次第で、急遽中止となる場合もあります。

花まつり

※ コロナ禍により、今回は甘茶の接待、お持ち帰りはありません。ご了承ください。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけ、お参りください。

ゴキョーカイ

お寺の 業界用語

日頃耳慣れない、お寺で使われる言葉をご紹介する、『お寺の業界用語』。ぜひとも覚えて、お寺に親しんでいただけたらと思います。

お布施というと、「お寺や僧侶に納めるお金」と思われている方も多いかと思いますが。これも「財施」といって布施の一つではありませんが、本来は「他に与えること」「施し」「喜捨」の意味で、仏教の重要な実践行為のことをいいます。ですから、金品を施すことだけが布施ではありません。

布施を、インドのサンスクリット語ではダーナと言います。「旦那」という言葉の語源としても知られ、また医療目的の臓器提供者「ドナー」の語源でもあります（これらは「施し」という本来の意味が、「施しをする人」に転じたことによるものだと思われます）。

真宗僧侶で宗教学者の釈徹宗先生は、布施とは「シェア（分配）のトレーニング」（『仏教ではこう考える』釈徹宗）だと表現されています。

仏教はお釈迦様の頃から、持ち物を分けあうことを重要視してき

お寺のゴキョーカイ用語 * お寺のゴキョーカイ用語 * お寺のゴキョーカイ用語 * お寺のゴキョーカイ用語

布施

ました。それは、自分の持ち物を他者に施したり分配することで、執着から離れ、自分の身心を整えるために行うのです。

私たちは、生まれた時から掴むこと、得ること、握ることばかり教えられてきたのではないのでしょうか。そのことで、握りしめた手を離すことができずに、かえって自分が苦しんでいるということはありませんか。欲望、夢や理想、プライド、怒り、嫉妬、過去への囚われ等々…。それらは、生きる力になることもありません。しかし、手に入れられない時、手放さざるを得なくなつた時には、執着が強いほど生きづらさは増していきます。

ものの見方や考え方を変えたり、肩の力を抜く。現状を素直に受け容れることで、世界は違って見えてくる。その為にも、手を離すトレーニングが重要なのだと仏教では考えるのです。そこから、「見返りを求めるものは（新たな執着を生むものは）、布施として認められない」といった内容やプロセスをも重視していき、次第に布施の理念は高度



に展開していきまます。

冒頭に、布施の本来の意味として「喜捨」という言葉をあげました。喜んで捨てるというのは、面白い表現だと思いませんか。この場合の「喜」とは「他者を幸福にする喜び」であり、「捨」とは「すべてのとらわれを捨てる」ことで、仏様の量りしれない利他の心をあらわします。その心を実現しようとする歩みの中で、「してあげた」から「させていただく、ありがとう」と方向転換することが、仏教の目指すところだと釈先生は指摘されます。（『キツパリ生きる！仏教生活』釈徹宗）

とはいえ、実践するとなるとなかなか難しいですよ。やっぱり「あれだけしてやったのに！」という思いは離れ難い…。何より、「あなたのために」という思いが押しつけになれば、相手を苦しめることもあります。でも、出来なさに気づかされることって、とても大切です。立ち止まり、自分の行為を振り返るブレーキになりますから。そのことを繰り返し、自分の生き方を形つけるトレーニングが布施の実践なのです。

また布施は、金品だけではありません。「無財の七施」という形もあります。

◇ 和顔施 和やかな表情で人に接する

◇ 心施 他者のために心配りする

◇ 言辞施 言葉を大切に使って、他者と接する

お寺のギョーカイヨージ * お寺のギョーカイヨージ * お寺のギョーカイヨージ * お寺のギョーカイヨージ

◇ 眼施 暖かいまなざし

◇ 身施 人のために奉仕する

◇ 牀座施 場所や席や地位をゆずる

◇ 房舎施 風や雨露をしのぐ所を与える

他にも、ただ相手の言葉を聴いたり、何もしないで傍にいただけであったり、相手の痛いところに手をふれたり、無財で行える布施行はたくさんありそうです。

質問コーナー

ではここで、ご門徒からの質問コーナーへと、移らせていただきます。

【質問】お寺に包む封筒には、すべて「御布施」と書いて良いのですか？

【答え】基本的には、「御布施」で結構です。但し、法座にお参りする時には「御法礼」と書く風習も、根付いています。

御布施

御法礼



ついでに言えば、葬儀やお通夜のお供えには、「御仏前」と書くのが浄土真宗のしきたりとなっています。「御霊前」と書くのは、他の宗派のしきたりですので、お間違えのないようにしてくださいね。



さて、ここまで読まれた方の中で、こんな感想をお持ちになられた方もあるかもしれません。「何だかんだ理屈をつけても、結局中身はお金。お寺に払う料金でしかないじゃないか」と…。しかし形は一緒でも、それをどう受け止めるかで、その後の展開が大きく変わるということがあるのです。

こんな話を、ご存知でしょうか。ある保育所では、一つの問題を抱えていました。親のお迎えが遅くなることがあるのです。親が来るまで、保育士さんが一人居残りなくてはなりません。この問題を解決するために、遅刻する親に対し「罰金」をとることにしました。

すると、予想に反して遅れる親が増えたというのです。それま

お寺のギョーカイヨージ ※ お寺のギョーカイヨージ ※ お寺のギョーカイヨージ ※ お寺のギョーカイヨージ

で後ろめたさを感じていたのがお金を払うことで、サービスとしての「料金」へと感覚が変わり、痛みを感じなくなっただのがその理由だとか。(「あなたはそれをお金で買いますか」マイケル・サンデル)

「罰金」には、やめて欲しいという願いが込められています。しかし、それを「料金」とした時、願いは軽々しく扱われることとなります。お金を払えばいいという考えは、お金さえ貰えればいいという価値観の人には有効かもしれませんが、そうでない人には迷惑で傲慢な態度でしかありません。

「御布施」と「料金」は、まったく違います。「御布施」という言葉に込められた、先達の歩みや心を受けとめることが、人生をより豊かなものにしていくのだと教えられるのです。 ■





極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで
検索を

レイアウトを
リニューアル
しました

月々の言葉

Monthly Words



4月の言葉

テレビの通販番組が、嫌いです。だって、欲しくなるから。商品の魅力を、様々な手法を駆使して語る販売士さん。「えーっ！すごい！」と驚くタレントさんや会場のお客さんの声。「今なら、この価格で」という購買意欲をかき立てられる価格設定。「これは、便利だ！」と思つて、ついつい買つてしまうのですが、いっしか使わなくなり、結局押し入れに仕舞い込むことに。そんなことの繰り返しです…。いくら素晴らしい商品も、それを活かすことができないければ、無駄にしかありません。何よりそれが、私にとって本当に必要なかどうか。使いこなせるのか。そんなことを考えるのですが、見るとまた欲しくなる。結局、購買意欲を刺激される言葉に、踊らされているだけのよう気がします。

東京工業大学の教授・伊藤亜紗さんは、著書『目の見えない』

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words



人は世界をどう見ているのか」で、「人は自分の行動を100パーセント自発的に、自分の意思で行っているわけではありません」と言われています。例えば、「寄りかかって休む」という行為ひとつとっても、大抵は「寄りかかる」と思つて壁を探すのではなく、壁があるから寄りかかってしまう。子どものいたずらも、ボタンがあるから押したくなるし、台があるからよじ登つてしまう。このように私たちは、「多かれ少なかれ、環境に振り回されながら行動している」のだと。

伊藤さんが、この本を書くにあたり取材した難波創太さんは、39歳のときにバイク事故で失明されました。難波さんは目が見えなくなつたことで、「踊らされない安らかさ」を持つようになつたと言われます。

「見えない世界というのは情報量がすごく少ないんです。コンビニに入つても、見えたところはいろいろな美味しそうなものが目にと止まつたり、キャンペーンの情報が入ってきた。でも見えないと、欲しいものを最初に決めて、それが欲しいと店員さんに言つて、買って帰るといふふうになるわけですね。最初はとまど

いがあったし、どうやったら情報を手に入れられるか、ということに必死でしたね。／そういった情報がなくてもいいやと思えるようになるには二、三年かかりました」(『目の見えない人は世界をどう見ているのか』)

コンビニの店内は、購買意欲を高めるために、商品を配列する順番から高さまで周到に計算された空間なのだそうです。確かに、公共料金を払いに行ったはずなのに、「新製品出てる!」

「ついでにスイーツも:」と、ついつい買っている私があります。視覚的な刺激によって欲望が作られ、気がつけば「そのような欲望を抱えた人」になっている。情報の洪水に流され、欲望を煽られ、踊らされてしまっているのです。自分にとって、それが本当に必要なものなのかどうか、わからないままに。

それに対して難波さんは、視力を失ったことで情報が制限されて、「踊らされない安らかさ」を持つようになられたのです。

※ 伊藤さんは、見えない人の苦しみに敬意を払いながらも、この『目の見えない人は世界をどう見ているのか』という本を通して、「そちの世界はどう見えているの?」「そちの世界も面白い!」と言えるような、豊かな世界を紹介されています。お薦めの一冊です!(先月号に引き続き、お薦めしてしまいました) ↘

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

私たちは、「これが欲しい」「あれがあれば:」と、様々なものを求めています。その代表的なものがお金でしょう。ところが、私の友人が、こんなことを言っていました。「知っていますか? 金持ちにも、悩みがあるそうですよ」って。彼も私も、金持ちになったことがないので経験したわけではありませんが、遺産相続問題やお金持ちのトラブルなどが報道される度に、やはりお金があつても悩みが尽きないのが人間なのだ、うなずかされるところです。

『大無量寿経』には、「田あれば田に憂へ、宅あれば宅に憂ふ」という有名な一節があります。田が欲しい、家が欲しい、財産や服が:と願つても、無ければ無いで欲しいと悩みが生まれるが、あればあるで悩みが生まれる。また、「(欲) 心のために走り使はれて、安きときあることなし」とあるように、欲望に追い回されて安らかな時がない。それが時代を超えて共通する、私たちの有り様なのだと思えます。

とはいえ、現代社会で生活していくには、お金は不可欠なものになりました。資本主義社会が、消費や需要という欲望の拡大 ↘



に支えられているのも事実です。しかしお金は、何のためのものなのかを考えなくてはなりません。お金は、あくまでも生きていくための手段や道具であって、目的ではないはず。手段や道具が、目的のように取り違えられているのではないのでしょうか。にもかかわらず、欲望を煽るために周到に計算された環境が作られ、ますます本当に求めるべきものが、見失われているように思えます。

親鸞聖人が尊敬され、大きな影響を受けた中国の高僧・曇鸞

大師という方がおられます（四世紀末から五世紀にかけての人です。ちなみに、親鸞の「鸞」は、曇鸞大師からいただかれました）。

『続高僧伝』によると、曇鸞大

師は『大集経』の研究を志しまし

たが、病気になってしまいました。

療養の末に何とか回復した曇鸞

大師は、志半ばでの死を恐れ、

不老長生の神仙術を学びました。

修行を終え『仙経』を得た曇鸞大師は、意気揚々と帰路に着き

ます。ところがその道中、菩提流支三蔵という僧に出会いました。

彼は北インドの出身で、多くの経典を中国語に訳し、後世に大き

な影響を与えた人物です。↘



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

曇鸞大師は菩提流支と出会い、「仏法には、『仙経』に勝るような長生不死の法はありますか」と、自慢げに語ります。すると菩提流支は「地に唾して」（地面にペッと唾を吐き）、「長生きしても、迷いの中にいるならば、意味がないではないか」と一喝します。そして、「ここに生死を解脱する道がある」と『観無量寿経』を授けるのです。曇鸞大師はその言葉で我に返り、浄土の教えへと導かれ、『仙経』を焼き捨てることになりました。（『続高僧伝』）

このシーンを、親鸞聖人は『正信偈』に、

「三蔵流支授浄教 焚烧仙経帰楽邦」

『高僧和讃』には、

「本師曇鸞和尚は 菩提流支のをしへにて

仙経ながくやきすてて 浄土にふかく帰せしめき」

と示されています。

これを私なりに解釈すると、長生不死の『仙経』はあくまでも手段や道具に過ぎないことを、菩提流支三蔵は指摘されたのではないかと思うのです。本当に、求めるべきものは何なのか。いくら寿命を延ばしても悩みがなくなることはないし、迷いからは抜け出すことはできない。「そんな現実を抱えている我が身であることを、見つめているのか。その現実の真つ只中で、それでも救われていく道を求めるべきではないのか。お前は、何に踊らさへ

れているのか！」と、一喝されたのではないのでしょうか。しかし、「地に唾して」という表現って、面白いですよね。『仙経』を得たことを自慢する曇鸞への、菩提流支の苛立ちが表れているようで。

いくら道具が揃っても、悩みが尽きることはありません。そろそろ、踊らされていることを自覚して、本当に求めるべきものは何なのかを、考えてみる必要があるようです。私の生き方を菩提流支が見たら、きっと苛立ちはマツクスなんでしょう。かなり唾を吐かれるであろう、そんな気がする今日この頃です。 ■



極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出ください。直接郵送します。

3月上旬のお花見は、極楽寺駐車場がお薦めです。

春のおとずれと共に、様々な花が一斉に咲き始めました。寒さに凍える冬も終わり、いよいよ花見のシーズンがやってきました。ところで、極楽寺駐車場の河津桜が毎年2月下旬に咲き始め、3月頭には満開となるのをご存知でしょうか。

今年も色鮮やかに咲きました。未だ寒さが厳しい時期ですので、一際目に映ります。早めのお花見気分を味わいたい方は、来年のカレンダーにチェックしておいてください。

また、春の永代経法要の時期は、境内の八重桜が満開になっているはずですよ。ソメイヨシノの盛りも過ぎた時期なので、これもまた楽しみです。



駐車場の河津桜



境内の八重桜



今年のカーブは、ひと味違う！久しぶりに、ワクワクしながら応援しています。この勢いが、いつ逆続くのかはわかりませんが、このひと時をしっかりと味わいたいものです。しかし阪神の負けっぷりは、一昨年のカーブのようですね。タイガースファンの気持ちが、痛いほどわかります。



5月の言葉

この言葉は、秋田洪範という方が作詞をされた仏教賛歌『ほとけのこども』の一節です。浄土真宗に限らず、仏教各宗派で親しまれている歌のようで、「われらは仏の子ども」という表現は、仏様と私たちの関係性を表しています。

菩薩が、あらゆる者を平等に、かけがえのないひとり子のように慈しみ悲しむ心を得た境地を、「一子地」といいます。ちなみに菩薩とは、さとりを目指して生きる人のこと。つまり、「自分のしあわせと他者のしあわせの実現を目指し、仏道を歩む人」のことです。その歩みで至る境地が「一子地」であり、その歩みを完成された方を仏様といえます。つまり仏様の前では、私たちは皆平等であり、かけがえのない存在として大切に思われている。そこから、「ほとけの子ども」という表現になったのでしょうか。

浄土真宗では、阿弥陀様のことを「親さま」と言い習わして、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

きました。親がわが子を思うように、阿弥陀様は私のことを思ってください。子どもから頼まれなくても、親は子を育てるように、阿弥陀様は慈しみ、はたらきかけてくださる。私たちの先輩方は、そんな「親さま」の無条件の慈悲に支えられ、自分の存在を確かなものとし、人生を生き抜かれたのです。



ところが近頃は、「親さま」という表現が使いづらい時代になりました。なぜなら、親子関係の難しさが、様々な形で明らかになったからです。

生活スタイルが変わり、子どもを見るよりスマホを見る時間が長い親がいることが問題になっています。「自分の夢を実現することが、人生で一番大切なことだ」という考えが広まったことで、子どもの存在を、自分の夢を邪魔する障害物のように感じる親も増えているようです。

そして、行き過ぎた経済合理主義の考え方が広がることで、「役に立つか、立たないか」「生産性があるか、ないか」の価値観が強くなり、子どもの存在価値を同じ感覚で測ってしまうことも、

よく言われるところです。また、「子どもを作る」という表現が一般化している通り、子どもを親の所有物のように扱う親の存在もクローズアップされてきました。事実、様々な幼児虐待の事件が起こっていますし、「毒親」と言われる親の存在も指摘されています。ただ同時に、その親たち自身が「親に自分の存在価値を認めてもらえなかった」という原体験を持っていたが故に、その歪みが子育てに影響したのだともいわれています。

私の子育てを振り返ってみると、多かれ少なかれ同じ様なことがある気がします。「こうすれば良かった」「あんなこと、しなければ良かった」と、息子や娘に対して申し訳ない思いでいっぱいです。



でも、子育てで難しいんですよ。「尊重する」のと「甘やかす」の線引きは難しいですし、導くために「叱る」はずが、感情にまかせて「怒って」しまうこともあります。「見守る」つもりが「監視」していたり、「信頼している」と言いつつ「無関心」になっていることもあるでしょう。

何より、親子は距離が近すぎますから、お互い甘えが出てし

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

まう。よそでは遠慮して言えない酷い言葉も、親子間ではストリートにぶつけてしまいます。それが許せる関係性が親子でもあるのですが、同時に相手を傷つけることへのブレーキが、効きにくくもなります。

とはいえ、親鸞聖人も親子関係には悩まれましたし、この問題は昔からあったものだと思います。問題化してきたのは、子どもの側から声をあげられる時代になったからなのか。それとも核家族化したことで、物理的にも精神的にも密閉空間に生活するようになった為、より深刻になったからなのでしょう。

よく、「親の愛」という言葉を聞きますが、基本的に仏教は「愛」というものを警戒します。なぜなら愛とは「本質的に自己を愛することを中心としているから」であり、「愛は憎しみと背中合わせ」であるからです（『仏教語大辞典』中村元著）。

私たちは、どこまでも自分というものを中心に考えてしまいます。でも、自分が善いと思つてしたことが、相手にとつては迷惑なこともあるんですよ。逆に、やってはいけないのではと自重したことが、実は相手が求めていたことだったというケースもあります。親子と言えど、相手の気持ちはわからない。あくまでもそれが前提であるはずなのに、わかっている気になっているこ

とですれ違う。愛が深いほどに執着し、それによって憎しみもまた深くなる。だから、仏教は「愛」というものを警戒するのです。

この分析を踏まえて生まれたのが、「慈悲」という考え方でした。真実の「智慧」によって自己愛を離れなければ、他者のしあわせを実現することはできない。悟りの智慧に裏付けられた「慈悲」こそが、自他をしあわせにする道なのだ、仏教では考えるのです。

では、難しい親子関係に、「慈悲」のはたらきである阿弥陀様という存在が加わると、どうなるのでしょうか。まず、親子共々「仏の子ども」ですから、阿弥陀様の前では、皆平等。つまり子は親の所有物にはなりません。とはいえ人生の先輩として、導き育てることは必要です。しかし、いつも自分が正しいわけではない、阿弥陀様と相談しながら子どもと向き合うこともできる。自分を振り返る場が、与えられるのです。

但し、「これで、すべての問題が解決できる！」とはならないのが、真実の智慧を持たない人間の悲しいところ…。ですが、この営みの繰り返しによって見方が変わり、育てられることは確かです。核家族という密閉空間に親子だけがいると、問題は起こりやすく深刻化もしやすくなります。でも、そこに阿弥陀様という第三者が入ると、関係性も生き方も、必ず変わってきます。↘

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

北海道の札幌と新千歳空港のほぼ中間にある北広島市は、二〇二三年に完成するプロ野球・北海道日本ハムファイターズの新球場の、建設予定地です。この町は、明治時代に広島県から移住してきた人たちによって、開拓されたことがはじまりなのだそうです。



広島は浄土真宗が盛んで、安芸門徒と呼ばれる地域です。江戸時代、浄土真宗が盛んな地域は、口減らしのための墮胎・間引きが行われませんでした。つまり、「共に阿弥陀様のお慈悲に包まれているのだから、貧しい中にも子どもを殺してはならない」という考えが生き方を生み、習慣となり、文化にもなったのです。しかし土地は限られていますから、人口が増えていくにつれ、貧困も酷くなります。苦しい生活を支えるために、出稼ぎ・行商に出る人も多く、移住も行われました。そんな状況の中で、明治時代に北海道開拓が始まり、広島から多くの人たちが向かいます。そして、その後のハワイ・北米等への移民へとつながっていったのです。（『真宗教社会史の研究』有元正雄）

北広島市は、このような背景によって生まれた町でした。ちなみに、北海道やハワイ・北米には、浄土真宗のお寺がたくさん↘

物でお布施

mono de ofuse

書き損じはがき・未使用切手・商品券
未使用テレフォンカード・ビール券など金券
CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器など

換金し、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも
集めています！

本堂の回収箱へ

あります。それは、移住した人々が阿弥陀様と共に生き、手を合わせてきた歴史によるものだと言えるでしょう。

ライフスタイルが変化した現代社会では、「われらは仏の子どもなり」と家族そろって手を合わせる事がほとんど無くなりました。

しかし、こんな時代だからこそ、家庭に阿弥陀様の存在が求められているのではないか。そんなことを思うのです。 ■



古い仏具 使わないお線香 お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置しております。



□ ロシアのウクライナ侵攻が始まって、一か月が経ちました。無残にも破壊された街の映像を見ると、本当に胸が痛みます。細やかな営み、かけがえのない日常を、戦争は容赦なく奪っていきます。ウクライナの人々や私たちからは、平和を破壊する行為にしか見えないこの軍事行動を、ロシアのプーチン大統領は「平和維持活動だ」と主張しました。よくもまあ、そんなことが言えるものだと、呆れて言葉もありません。 □ しかし歴史を振り返ってみれば、どんな国も「平和のために」「防衛のために」と正義を主張して戦争を行ってきました。国だけではありません。理想を掲げ、美しい言葉を語りながら、残酷な行為を行った思想団体や宗教団体もありました。身近なところで言えば「教育」「愛情」という言葉で、虐待やハラスメントが行われることもあります。それは、嘘や詭弁で言っているわけではないでしょう。正義や理想を高く掲げた時、それを邪魔する悪が現れる。自分が正義だと信じる思いが強いほど、躊躇いなく断罪できる。される側から見れば、それが理不尽で残酷なものだとしても、正義とは恐ろしいものなのだと、改めて思い知らされます。 □ 親鸞聖人は、生涯を通して悪の自覚に立ち続けられました。自らの悪を知るからこそ、内省が生まれ、他者の思いが見えてくる。そんな豊かさがあることを、私たちは知らなくてはなりません。(住)

ウクライナ支援の募金箱を本堂に設置しています

ロシア軍により破壊されたウクライナの街並みの映像を見ると、言葉がありません。残酷な現実の前に、無力さを感じています。せめて、故郷を追い出された人びとのためにと、本堂に募金箱を設置しました。ご協力をお願いします。

次回法座の予定

仏教婦人会降誕会 5月21日(土)
夏法座 6月15日(水) 16日(木)

御講師 岡本達美 師(山口市蓮光寺住職)